

(2) 院外

有志・ボランティアで成り立つ。

スタッフの育成が大変。

やる気あり、継続的に行うが、参加者はいても、スタッフが少ない。人選の必要性。

1年間プチボランティア→スタッフに選ぶ。

資質のみきわめが大切。

組織に守られているわけではないため、問題が起きたときに困る。

患者会：生活の場、社会の一員で、個人の責任。

サロン：仕事として。深い話をする。病院で専門的知識を持っている人が支援する

(3) 院内

グループ（参加人数）が多いとき、病棟スタッフの協力を得ている

看護部：勤務内に参加してもらうのが難しい

ミニ講義：割り当てを決めている（年間計画をたてる）

患者さんの本音が聞ける

栄養相談：栄養士に依頼

2. ピアカンセラーの育成

- 知識を持って入りすぎない（サポートグループでは良い運営ではできない）。
- リピーターがいると、会を盛り上げてくれる。
- 患者側の意向が大切。
- ファシリテーター的な役割を医療者側。
- ピアサポートグループとサポートグループの見分けがわからない。
- 患者会（情報）とサロンの違い。

3. 資金

- 事務用品は院内予算（紙質悪い）。
- 費用面では、自宅にある（ポット）持参したりする。

6 グループ

【付箋】

1. ピアサポーター育成

(課題)

- ピアサポーターも患者（家族）であるので、養生していく必要がある。
- ピアサポーターの育成が課題。

2. 広報について

(課題)

- 新規参加者がなかなかこない。
- がん患者サロンの周知の方法。
- 医療従事者への広報。

(工夫)

- 参加者が少ない：病院内アナウンスをしてもらう。目につくところに案内を掲示してもらう。
- 院内スタッフへの啓蒙。
- 病棟看護師が当番制参加。

3. 運営方法

(課題)

- サロンの形態：グループサロン、部位別サロンなど 患者家族のニーズにあう形態。
- 部位や進行度の違う方々が集まって話し合うことの難しさ。
- (再発おしゃべりサロン) 現状 2 ヶ月に 1 回の開催を 1 ヶ月に 1 回にしてほしいという要望がある。
- AM10 時から 15 時の開催だが、13 時からのミニ講義に集中し、午前中の参加が減った。

(工夫)

- 患者と家族を分けたサロンの開催。

- 同じ病気の人と（部位、時期）話したいというニーズに応える。
- 同じ病状（再発部位）で元気になっている人がいれば、その場で紹介。気落ちしている人が元気になる。
- ファシリテーターを一人にしないで、参加しているピアサポーターが協力して話を聞き、全員で共有できるように進行している。
- 参加者のニーズの把握をしている。受付の際、医療者との面談、患者さんとの交流、講義参加の分類
- 医療的な不安については、相談支援センターから協力体制をいただく。

<患者会←→患者サロン 連携・ニーズにあわせて利用>

- 参加者全員が発言できるよう、タイムマネジメントをきちんとする。
- はじめに自己紹介、病歴・病状、(再発)、治療の内容を話す。→自分の治療を詳しくメモするようになる。
- 民間療法やあやふやな情報等、ナビゲーターとして考えを整理し、発言。参加者が混乱しないように運営に留意する。
- 季節によってイベントを取り入れ、楽しい雰囲気になるよう心がけている。七夕短冊、クリスマス、リレーフォーライフなど
- がん哲学外来とのコラボレーション。

4. 個人情報の保護（運営方法+個人情報の保護）

- 参加者の個人情報を守る：サロンでの発言、個人情報は他言しないように注意喚起する。
- 職員の配置や環境の決定が難しい（サロンという形が準備しにくい）

5. 評価

（課題）

- 参加しての評価をどのようにするか

（工夫）

- 参加代表者との定期的な意見交換の設定
- 職員間の定期的なミーティングの開催

6. 定義

- 患者会との棲み分け、あり方、定義

【まとめ】

1. ピアサポーターの育成

- サポーターも患者：養生が必要。
- サポーターの育成。

2. 広報について

- 院内アナウンス。
- 案内掲示。
- スタッフの啓蒙。

3. 運営方法+個人情報保護

- 患者と家族を分ける。
- 同じ部位・病状。
- ファシリテーターを一人にせず協力。
- ニーズの把握。
- センターとの協力体制。

4. 評価

- 定期的なミーティング。
- 意見交換。

患者会←→患者サロン

連携、つないで、ニーズにあわせて

何を求めているか

一つのサロンで全てを解決は難しい。それぞれのサロンの特徴にあわせて利用する。運営者は誘導する。

- 同じ部位同士だと意見交換がスムーズ→同じ部位だとほっとする。前立腺がん：性生活など話せない部分も話せた。
- 別の部位でも、持って行き場のない思いをはき出す。
- 初めての方は、ファシリテーターが促す。
- サロンと患者会をうまく使い分けている方もいる。サロンだと医療者がいる（気持ちのつらさがだせる）→患者が何を求めているか？ 医療者は患者会に促す。
- 予後告知、本人にどうか、家族の希望（言いたくない）と本人の意思（最後まで闘いたい）。
- 運営で悩んでいるが、工夫も多くあることがわかる。

7グループ

【付箋】

1. 運営方法

	運営方法	
	課題	工夫
マンパワー	運営方法（継続性）限られたスタッフで対応している	<ul style="list-style-type: none"> ●支援者の困りごとなどに対し、支援者（世話人）が集まり、互いに相談できる場を月1回もうけている。 ●病院スタッフにミニ講演などで実際に参加して知ってもらう。
ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ●ニーズを踏まえたサロン運営 ●参加者のニーズに対応できているのか。 	アンケートをとってニーズを調査する。
主体移行	<ul style="list-style-type: none"> ●患者会を患者主導にしていくようにするにはどうしたらよいか。 ●院内がんサロンの運用をいずれは患者主体にと話はあるが、主体になりそうな患者会はいない。 	自分たちで主体的に何をしたらよいか考えてもらい、徐々に主体を移行。

2. 広報

（課題）

- サロンの院内周知。
- 院内がんサロンが活用されていない。
- 院内がんサロン活用のためのインフォメーション法は？ポスター、院内放送、ホームページなど。
- サロン広報 がんの罹患や告知の段階など、早い時期からサロンの存在を情報提供。
- サロンの活動内容を集約し、情報提供窓口を整理する。
- 開設時間、日数の拡大。
- 院内がんサロンが活用しやすい場所（配置）は？

(工夫)

- 広報誌、ポスター（院内）、ホームページ、スタッフの参加を促す
- 院内医師や看護師に直接説明会を設定する。

3. 人材育成

(課題)

- 参加者同士の交流を促進するスキル。
- 人材育成をどうするか（当事者、支援者）。
- サロンを継続するための人材育成や組織の協力。

(工夫)

- 県の事業で育成がある。
- 勉強会を開催する。

4. 参加状況

(課題)

- 参加できない、しない方の理由に対する対応策。
- サロンにこられる方が固定化してきていて、新しくこられる方がなかなか増えない。
- 資金不足。
- がん種によって、患者会に求めることが違っているように思う。そのへんのサポートが難しい。
- トラブルが起きてしまうことがある。
- 参加者同士のトラブル、対立の際の対応。
- 参加者内の凝集性が高まるには、どうすればよいか（2次会もできるような関係）。

(工夫)

- サロン運営に関するマニュアル作りやルールの徹底。
- 誰がきても、あたたかく迎えるように心がけ、環境を整える工夫。
- 主になるスタッフがフォローする。
- 参加したスタッフが対応を記録に残す。
- 開催時のルールをきちんと説明する。
- 説明しても話し合いの場になると、専門的な話になってしまうことも。

5. 方向性・評価

(課題)

- サロンの今後の方向性。
- サロンの効果・奏功性を伝えていくための評価方法。

(工夫)

- アンケートをとる。もう行きたくないという人の意見が把握しにくい。

【まとめ】

1. 運営方法

(課題)

- 継続性。
- スタッフの人数。
- 参加者のニーズに対応できているか。
- 患者会を患者主導にする手法。

(工夫)

- マンパワーの問題。
- トラブル時の対応。
 - ・支援者の情報交換の場で共有。
 - ・心理療法士が介入。
 - ・支援者の困り毎などに対し支援者（世話人）が集まり、互いに相談できる場を月1回設けている。
- 病院スタッフにミニ講演などで実際に参加して知ってもらう。
- アンケートでニーズ調査。
- 主体的に行動を誘導。

2. 広報

(課題)

- サロンの院内周知。
- サロンが活用されていない。
- 活用のためにインフォメーション方法（ポスター、院内放送、HP）。
- 情報提供窓口の整理。

(工夫)

- 広報誌。
- ポスター（院内）。
- HP。
- スタッフの参加を促す。

3. 人材育成

(課題)

- 参加者同士の交流を促進するスキル。
- 当事者による支援者の育成方法。
- 継続するための育成や組織の協力。

(工夫)

- 勉強会を開催する。
- 県で育成事業がある。

4. 参加状況

(課題)

- 参加者の固定化。
- 資金不足。
- がん種によって、患者会が求める事が違う。
- トラブル時の対応。

(工夫)

- 運営に関するマニュアル作りやルールの徹底。
- 環境を整える工夫。
- トラブル時の対応
 - ・主になるスタッフがフォローする。
 - ・参加したスタッフが対応を記録に残す。
 - ・開催時のルールをきちんと説明する。
 - ・患者同士の情報交換が患者のマイナス情報になる。

5. 方向性の評価

(課題)

- 今後の方向性。
- 効果・有効性を伝えるための評価方法。

(工夫)

- アンケートをとる。
- もう行きたくないという人の意見が把握できない。

6. 環境の整備

(工夫)

- 誰がきてもあたたかく迎えるよう心がける。

8 グループ

【付箋】

1. ファシリテーター育成・世話人

- ファシリテーターなど人材の育成
- 人材の確保
- ファシリテーター（リーダー、世話人）のトレーニングの質の向上
- ファシリテーター（司会者）は参加者全員に一言でも話してもらうよう促す。

(1)世話人

- 主催側患者のメンタルサポート。

(2)ファシリテータースキル

- 一人の話す時間を上手に誘導する。
- 傾聴。

2. サロンのあり方

- 患者会とどのようにつながるか。
- 病院主体からセルフグループへのサポート。
- 多様性の共有と共存（横のつながり、お互いを知ること）
- サバイバーの立場であっても、それぞれおかれている立場の違い。

3. 運営するための工夫と課題

(1)開催・運営

- （工夫）定期的な開催 例）第○曜日 <生活の目標>
- （工夫）専用の場所確保
- （工夫）参加しやすい場所で開催
- 運営者以外のサポートメンバー
- トラブル時の対応

(2)企画

- タオル帽子の配布など闘病応援グッズ
- 雰囲気作り、スタッフの人数、場所、お茶など

- 小物（花や絵、置物）で和やかなムード作り。
- どのようなテーマで行うか。
- 交流以外の催し。
- 初発・再発、遺族、疾患別のサロンはどう広げるか。

(3)資金

- 運営のための資金調達

(4)広報

- 広報のやり方 院内外
- 参加者を確保するための広報の仕方
- （工夫）ポスター掲示や外部の広報誌への案内
- 広報のあり方
- サロンがあることを知ってもらうために市の広報などを活用する。公共の場でのアピールなど。

4. 情報

- （工夫）情報収集をしやすい環境整備（冊子やインターネット接続）
- （課題）玉石混交の情報の選定（インターネットなど）
- （課題）個人情報の保護（プライバシーの確保）

5. 評価

- 評価の方法

9 グループ

【付箋】

1. 課題

(1) 運用費用

- 運営費用
- 運営費の問題
- 参加費
- 開催するイベントの経費
- 運営費

(2) 広報

- 開催日の固定、参加者の固定
- 参加者・支援者
- 途中退室も可能と伝える

(3) 患者団体との協力

- 院内小児科にてサロン運用・活動をしたい。
- 患者会や他部署との関わり方について。
- サロン参加者から病院への要望についての対応。
- ピアサポートの選定と質の確保。
- サロンの効果をみる（評価）していくことが課題。
- 病院内でサロンを作ってほしい。
- サロン運営にたずさわっているスタッフの工夫：MSW、看護師、医師、他
- 医療職以外の専門職からの協力。
- 運営者としてのファシリテーター能力を高める。

(4) その他

- 患者が亡くなった後の身内のサポート。

2. 工夫

(1) 場所

- あまり広くない場所。
- 院内でも病院らしくない環境作り。
- 病院によいイメージを持っていない人がいるので（特に亡くした人）環境作り（入りやすさの工夫）。

- お花を飾る、テーブルクロス、ティッシュケース、BGM。
- 場所選び：なるべく目立たないところ、駐車場の広めのところ。
- 患者さんが参加しやすい環境（ハード面）の整備・工夫、テーブルの大きさ、いすの配置等。
- 援援会と交流会の場所をちがうところもよい。
- サロン参加者のがん種や病期の配慮。
- 環境・場所。
- 誰もが気軽に参加できる場所であること。
- サロンの場所、環境作り。

【まとめ】

意見が多かったのは

- 患者団体との協力
- 運営費用

1. 工夫

(1)場所：環境作り（参加しやすい）

- 目立たない：プライバシーを守ってほしい（病気のことを知られたくない）
- こじんまりした空間：顔の見える距離（丸テーブル）
- 来所しやすい：わかりやすい場所
- 空間の工夫：雰囲気（病院のイメージから離れたたい）
- 費用がかからない：治療費で負担大
- 病院の看護師がいる：治療中の思いを共感したい
- 同じ状況にある人：患者と遺族、その家族、病気の受容時期、がん種など

(2)運営

サロンにたずさわるスタッフ

- 病院で他の仕事を抱えながら仕事して担当する（患者の主体性がなくなる場合あり）
- ボランティアである場合：担当するスタッフだけではなく、他の専門職の協力必要（医療職、SW、ファシリテーター（能力）、ボランティアなど）

(3)広報

- 世間体への配慮：途中退席可、参加不参加自由、他者にわからないように
- イメージをよくする：明るいイメージ（オレンジティーのちらしなど）
- 気軽に参加できる

(4)費用

- 運営費：お菓子、お茶代など（お茶代は経費で落ちるが、お菓子は落ちないことが多い）

(5)患者団体の協力

- 人間関係：患者同士で合わない、意見が食い違い←医療者などが協力
ただし、医療者が入ることで、医療者への不満が言いにくい面もでる。

(6)悩みで個別的なもの

- 他につなげる工夫：セカンドオピニオン、医療費。

10 グループ

【付箋】

1. 組織

- 病院側の理解。
- 病院内でサロンをひらくことでの医療者に求められること、どう応じていくか。
- 組織的位置づけが不明瞭（弱い、あいまい）。
- 目的の設定などの枠組みを検討すること。
- 院内での周知が少ない。サロンを行うことで何に貢献できるのか。

2. 予算

- 運営費
- お金にならないことにまわりの理解がない（経営上の問題）。
- 予算がない→寄付、カンパ。

3. PR

- 院内へ院外へ。
- PRは誰に：院内スタッフにもみてもらう。

4. 人員

- 院内等関係者の協力をどのように得ていくか。
↓
- スタッフの不足。
- ピアサポーターのレベル。
- スタッフの関与をどの程度していくか。

5. 場所

- 外来や入院病棟の建物と別棟にあり、場所が不便。

6. 4, 5 に対しての工夫

- 毎日開催できるような場所と人員を確保している。

7. 運営方法

(課題)

- 患者主体での運営に持っていくのが難しい。
- 相談支援センターと患者会との協力体制。

(工夫)

- 大規模なサロンと小規模なサロンの両方を実施。
 - ・テーマを決めた勉強会
 - ・お話の会
- サロンに人が来てもらえるようにイベントの開催。
- 部位別サロンの開催
 - ・症状や対処についての情報交換がさかん。
 - ・現実に直面する場面もあり。
- がんの部位や再発の有無などにより、共有できる話題が異なり、どのように配慮し、場を提供できるか。
- 長年の経験により、その場の状況に応じて対応する。
- 気軽に本音を話せる雰囲気作り。

8. 参加者

- 参加者が少ない。
- 話題：初めての方とリピーターの方。

【まとめ】

- 組織的な問題：予算、人員、運営方法、参加者に分けて検討。
- 病院全体に周知されるような取組み。
- 病院内での理解・協力→院内で。
- 院外への PR と同時に院内の PR。
- PR を誰にするか→寄付、カンパ。
院内スタッフにみてもらうことも効果あり
スタッフに理解してもらうこと
- 部位別の利点。
- 部位を問わないときの話題。

11 グループ

【付箋】

1. 運営

(課題)

- 月1回のサロンに来られない方のサポート。
- 開催時間はどのくらいが適当か。
- グループ内にファシリテーターは必要なのか。必要だとしたら誰がよいか。
- 現在のサロンの運営方針を見直す。
- 参加費をどうするか。
- 現在は、相談員主導で運営しているが、今後は患者主導でと考えている。どのような工夫が必要か。
- 会議室を使用している。会場の雰囲気作りの工夫は？（花、植物、冊子、パンフレットの設置）。
- おでかけ ゆんたく会（病棟で開催）
- 部屋：いつでも使えるわけではないので。
- 現在は、アンケート結果や参加者からの声で毎回評価しているが、どのように評価していけばよいか。
- 患者団体との連携はどのようにすればよいか。

(1) 広報

(スタッフ)

- 急性期病院のなかのがんサロン。なかなか院内スタッフの理解や協力が得られない。
- 開催周知をするために、病棟師長さんに交代で参加してもらい、理解を深め、患者さんに案内してもらおう。

(患者・家族)

- サロンの存在の周知。
- インターネット（ホームページ）、チラシ、スタッフからのアナウンスをしているが、多くの人に参加してもらうには、どうしたらいいか。
- 入院患者さんのサロン参加が少ない。
- 新規の参加者が少なく、リピーターが多い。広報の仕方など、どのように工夫すれば参加者を増やすことができるのか。

(工夫)

- 広報：ポスター、HP、院内画面、放送等で呼びかけている。
- 参加者を増やすために、ポスターの内容の変更、掲示場所を増やすなど、広報について工夫している。
- 年度計画をたて、事前に予定を伝えている。
- 事務的業務（運営費、応募等）の処理。
- がん相談支援室の隣に患者サロンをおくことで、いつでも看護師、医療者に話ができる。
- 「楽しい時間の共有」をするために、現在は、運営側がイベント開催して参加型にしている。

2. 対象

(課題)

- 部位別のおしゃべり会を開く。
- 現在は疾患別にしていないが、疾患別の方がよいか。
- 今後は、患者・家族の交流会を企画していきたい。
- 患者・家族同一グループとしているが、分けた方がよいのか。
- 辺地・離島の方のサポート。若年の方のサポート。
- 場を独占するメンバーについて。

(工夫)

- 家族を対象としたサロンの開設。
- 家族と患者をわける。
遺族体験など家族ならではのつらさ（本人に聞かせたくない内容）
- 2つのテーブル（がんばるファシリテーター）
 - ・初回の方、再発
 - ・リピーター

3. 内容

- 記念ミニコンサートの開催。
- 参加者によっておしゃべりの運営を変える。
- がんに関係するCD/DVDの提供。
- 年3回小講義を計画（医師、看護師、栄養士など）参加者からの意見を参考にしている。